青山通りに面した60平方メートルの直営店。情報発信のために思いきって都心に拠点を構えた＝東京・青山

be on Saturday

b2
beランキング 「思い出の冬季五輪」
バンクーバー大会を前に。これまでで最も印象に残っている名場面を読者が投票。1位は？

キミの名は MG5 売れ筋陳列 知って安心

b3
サザエさんをさがして 二代目広沢虎造
磯田道史この人その言葉 安田善次郎

b4
be report 「ハローキテ」 新・宇宙家族
逆風満帆 パンタ1 motwani@india

b5～7 （抜き取ってご利用ください）
週間テレビ 小澤征悦さん／番組表

b9
家計診断 「子ども手当」もらうと家計は？
マネー探検隊 勝間和代コラム フジマキに聞け

b10
be between デパートで買い物してますか
悩みのるつぼ いわせてもらお 編集部から

b11
てくの生活入門 最新テレビの選び方
でじかめワンポイント えくせるニ刀流

be

e1-3
うたの旅人 「サボテンの花」（福岡市）
財津和夫さんがチューリップ時代に実体験を元に作り、90年代にドラマ主題歌として再ヒットした。彼の故郷でモデルのサボテンを見た。

e4
元気のレシピ 焼きナスとサケのカルパッチョ
作家の口福 川上未映子 近藤典子家事の花道

e5
元気のひけつ 心臓突然死を防ぐには
元気のひみつ 山寺宏一さん 日野原コラム

e6
再読ガイド 当代の言葉で描く ベルばらKids
ののちゃんのDO科学 高橋睦郎花をひろう

e7
パズル 間違い探し、推理、数独

フロントランナー Front Runner

モーハウス代表 光畑（みつはた） 由佳（ゆか）さん（45歳）

授乳服が女性と社会つなぐ

大豆胚芽をたっぷり使いました。
コレステロールを気になる方へ 健康サララ

「授乳ランナー」と聞いて、驚く人も多いのでは。11月23日、東京・青山で「いいお産の日」というイベントが開かれた。8組の母子が着用、授乳服を着たお母さんが、おっぱいをあげながら、出産や子育てについて語り合った。前列端が食物のタンパク質について語っているのの情報を発信している。

編集者たちからは、JR中央線の車内での出来事、次女が泣き出して、とりなす授乳をとっさにすばやくて機をとげられなかった。その直後に米国製の授乳用シャツを知り、取り寄せてみた。驚き通すと「これで子どもと一緒に出かけられる」と喜びがわいてきた。

ただ、使い勝手が悪く、それならばと授乳用のブラジャーを試作した。近所のお母さん仲間に感想を求めたが、評判はよかったが、「これでいいの？」その理由は、女性は家で子育てするの気だった前、子を優先して義は背負えるべきだ――という考えだった。

「なぜ分かってもらえないのと自問し、結局、夫の実家がある茨城県に引っ越したが、友人はいない。実家も近くもない。環境のあった東京との距離を感じた。同じような女性は多いのではないか。そう思い、97年に新興カラーコピーで手作りのカタログを作り、関係筋においたり、パソコン通信の仲間に呼びかけたりした。現在、従業員4人、少子化の時代にあって年4万枚を売り上げる。

3人の子を育てながらの会社経営。「ワーク・ライフ・バランス」というが、子育ては私も、仕事と私生活のバランスをとるだけでなく、両立して楽しく、とにかく、ライフ・ミックスに」を心がける。

それを商品のひとつの形としたのが「子連れ出勤」だ。本社をニコの加藤で、いまは4人が子どもの体調や家族と、勤務時間が変わる。仕事の組り組みをバックアップ態勢をつくりなが受け入れ側の負担は増える。だが、「育られた時間の中でも、仕事に専念し、結果を出すことができるお母さんたちの力がもったいない。働き方の柔軟性を広げるための提案です」と話し合いの。

ウェブサイト「ちくるまの」を立ちに上げた「楽」と名前で女性を表す「ふれ」「子育てしてなんでも」を社会生きる働き方を自分でデザインできるヒントを発信しているの。自分が授乳服と自出を得たように。

文・大野さき子
写真・川村直子

b3面に続く

「社会に広がってほしい子連れ出勤」

フロントランナー Front Runner （b1面から続く）

光畑 由佳さん モーハウス代表

―どうして子連れ出勤を始めたのですか。

最初は必要に迫られてです。子連れで来ていた友人がスタッフになったから、働く意欲のある相手のあるんなそのままにしておくのは、もったいない。モーハウスには看護師や建築士、通訳、コンサルタントなど、さまざまな資格を持った人がいます。いま家の仕事に専念つくことは少ないかもしれないけれど、働き続けることはできます。何よりも授乳服を実際に使っている当事者の声を聞く人もいますし、転勤先で出張所を開く人もいます。

―どのような人が子連れ出勤を希望するのですか。

「子どものためさらには子育てを楽しみたかり働きたい」「授乳時間があるならってみたい」という人ですね。本社がある茨城県つくば市のあるんなそのままにしておくのは、これまでに約160人が子連れ出勤をしています。市によっては異なりますが、1歳または3歳までです。その後、子どもを保育園に入れて働きます。いま、3人が子連れ出勤中。本社は子連れ出勤の人用の部屋に、ベビー用品とおもちゃを用意しました。育児の店では、必要に応じて利用者に無料のベビーベッドを使いません。ランチ時間を避けるようにもあります。

―枝肉は扱いないのですか。

扱えが大きな会社ならば、それも可能でしょう。子連れ出勤は機動的なものもしれません。「子連れまで認めている会社もあるのだから、うちの会社も、できることからやってみよう」子どもの柔軟性の中に休むくらいいいよね」と思ってもらえれば、本社に、いろいろな働き方を広げていきたいのです。企業の外部担当者を経験者から問いあわせもあり、少しずつですが、子連れ出勤も広がっているようです。

―電車内で授乳したことから授乳服を作ったんですね。

長女を産んだとき、授乳の問題をあげてしまって苦しんだ経験から、せっかく頑張っていました。母乳育児を続けたかった。だからこそ、仕事の前で授乳できるのは、はかられる。お母さんたちが投稿するツール（道具）として作りました。

―最初は、あまり売れず？

妊娠中は赤ちゃんを産む工夫コール。赤ちゃんが生まれたら考えることに無頓着に、自分のことは後回しになってしまうんです。独身時代には、あれこれ買い物していたのに、なぜ、みんな授乳ちゃるのか、と疑問でした。

―トップスが1万円前後です。

高級品ですね。ちょっとかたくて、小学校の同級生の家でも、授乳を続けるなら出るのを遠慮します、いろいろな働き方を市況の仕方がある。古い考えに縛られないで市場でいてほしいんです。

―活動の幅はかなりです。

子どものころの活躍ぶりも聞きたいんです。駆けまわりが多い。「でも、就職に